

きょう「東京大空襲」66年

10日で東京大空襲から66年を迎える被災地などでは、平和を願うオブジェの展示、空襲の爪痕を残す施設の公開などが行われている。10日午前10時から、空襲犠牲者らのための慰霊大法要が墨田区横網の都慰霊堂で営まれる。

展示通じ願う平和

新宿区内では、空襲の被災者を埋めた仮埋葬地の現在をとりえたフリーカメラマン広瀬美紀さん(三軒川崎市)の写真展「わたしはここに」が開かれている。写真専門学校の卒業前、テーマとした仮埋葬地は七十カ所以上

追う 仮埋葬地の今



川崎の 新宿で写真展
広瀬さん

仮埋葬地を写した、モノクロ作品＝新宿区で

レヒで東京大空襲のドキュメンタリー番組を見て、「東京の近くで生まれ育ちながら知らなかった」と思い立ったのが、仮埋葬地を撮り始めたきっかけ。東京大空襲をはじめとする区部の空襲被災者を埋めた仮埋葬地は七十カ所以上

あり、近年撮った作品を展示した。当時を知る人から聞いた話を添えたが、仮埋葬地だったことを隠したい人も多く取材は難航したという。桜が咲く墨田区の公園や、遊具が並ぶ台東区の公園、保育園の運動会が繰り広げられる大田区のグラウンドなど、現在の風景は平穏そのもの。六十余年前は、川に流れてきた死体を埋めるなど悲壮な光景が広がっていた。広瀬さんは「モノクロ写真で余計な情報を排して本質をとらえたい。目に見えない真意を伝えたい」と考えた。「亡くなった人も大事。生きてる人も大事」と、死者には手を合わせて撮影し、仮埋葬地の具体的な表示は伏せた。

写真展では、仮埋葬地のモノクロ写真四十点を展示。二十一日まで西新宿の新宿エルタワー二十八階の二コンサロn bis 新宿で開かれている。午前十時半から午後六時半。無休。(松村裕子)

東京大空襲で火災に遭いながら、崩れ落ちることなく焼け残った江戸川区役所旧文書庫＝同区小松川3＝の内部が一般に公開されている＝写真。内壁が至る所で真っ黒に焼け焦げ、戦火の恐ろしさを今に伝える。午前9時～午後5時、10日まで。

戦火「語る」内壁

江戸川 区役所 旧文書庫を公開



同区では東京大空襲で、死者約800人、負傷者約5800人、全焼家屋1万1000戸の被害があった。当時、小松川にあった区役所木造庁舎も全焼。北隣にあった文書庫はコンクリート製だった。2階建て延べ65平方メートルで、毎年3月10日の前後に公開している。

地元で空襲の被害を語り継ぐ活動をしている同区東小岩5の楠田正治さん(66)は「旧文書庫を通して、若い世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えたい」と話している。(伊東浩一)



折り鶴を使った巨大な壁画「平和のオブジェ」＝墨田区役所で

ツリーまで祈り届け

墨田区役所内 折り鶴オブジェ

墨田区役所一階アトリウム 壁面には、約十一万羽の折り鶴でつくった平和のオブジェが掲げられている。毎年制作しており、二十回目となる今年の名は「東京スカイツリーを眺めながら、平和を想う」。スカイツリーに向けてハトが飛び立ち、平和への思いがツリーのように空高く積み上がっていくように、との願いが込められているという。

墨田区周辺は、東京大空襲

で最も被害の大きかった地域。南側の旧本所区の96%、北側の旧向島区の57%が焼失し、二万七千人以上が犠牲になったとされる。オブジェは、区民らから募った折り鶴をテープで貼り付け、高さ十三層、幅七・五層の作品に仕上げた。オブジェ周辺では、十日正午から平和祈念コンサートが開かれ、新日本フィルハーモニー交響楽団が弦楽四重奏を披露する。十日から二十四日まで、平和についての絵や詩など八百九十五点を展示する「平和メッセ」も開かれる。区民や、海老名香葉子さんら著名人のメッセが並ぶ。(小野沢健太)